

風の萌

特定非営利活動法人(NPO)
在宅ケアを支える診療所・
市民全国ネットワーク機関紙

第 039 号

2017 年 9 月 20 日

安心して子育てができ 老いても障がいがあっても 自分らしく暮らすことができる コミュニティーの創造

「第 23 回 全国の集い in はちのへ 2017」

「八戸でかたるべし!!」

多くの皆様のご参加をお待ちしています。

深澤 隆 全国の集い in はちのへ 実行委員長
(医療法人青仁会青南病院 病院長)



時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワー
クの活動にしましては、皆様の多大なるご支援を賜
り心より御礼申し上げます。

この度、第 23 回全国のつどい in 八戸を平成 29 年
10 月 8 日(日)と 9 日(月・祝)の両日にはちのへファ
ミリークリニック院長の小倉和也先生を大会長として、
八戸市公会堂と八戸市公民館を主会場として開催いた
します。開催準備も本部理事の皆様をはじめ本会会員
や多くの方々のご後援とご協力により順調に進んでい
ます。

今回の大会のテーマは「かだるべし! 創るべし! 地
域のくらし 日本の未来」です。「かだるべし」には、「語
り合おう」という意味と南部弁(八戸市地域の方言)
で「仲間に入ろう」という意味も込められています。
これからの地域包括ケアシステムの構築や地域共生社
会において、どのような立場の人たちも、自分の事と
して地域での暮らしを支える仕組みを考え、創りあげ
ていくことが必要ですが、そのためには、誰もが協力し、
その地域に合わせた暮らしの仕組みを作るために「仲
間で語り合うこと」が欠かせないものと思います。集
い語り合うことで現在の全ての世代、さらには次の世
代に至るまで安心して暮らせる日本の未来を創りあげ
ることが出来るものであると信じています。

本大会では、特別講演をはじめ、シンポジウムや実
践交流会、ランチョンセミナー、市民公開講座、懇親
会を企画しました。実践交流会では多くの演題登録を
頂き、また既に多くの方々に事前参加登録を頂いてお
ります。当日は、「かだるべし」を実践できるようにそ
れぞれの企画でご参加頂いた皆様で意見交換できる場
も設けております。

当日は多くの関係者各位の皆様のご参加を実行委員
一同心からお待ち申し上げておりますので何卒よろし
くお願いいたします。





はちのへ大会の「実践交流会」で発表される演題を一気に紹介します。詳細は後日抄録集をご覧ください。

今年も様々な演題が集まりました。ご興味がある演題が有りましたら、是非大会にご参加下さい。

1. 在宅生活の継続

座長 石田 一美 秋櫻醫院

井岡 真基 公益財団法人シルバーリハビリテー ション協会シルバークリニック 院長

- C01-1 旧くて新しい褥瘡の軟膏療法
- C01-2 高齢者本人の望む最後が叶えられるために
- C01-3 できることを続けたい ～役割を持つての在宅生活～
- C01-4 本意ではなく訪問診療終了となった事例の検討
- C01-5 社福での保険外地域貢献事業「みぞべ元気塾」
- C01-6 在宅療養支援有床診療所での在宅オアシスベッドの活用について
- C01-7 主観的満足度が高く、健康長寿で暮らす超高齢夫妻の紹介
～長生きの秘訣「心の平安」が QOL の要となったケースについて～
- C01-8 高次脳機能障害デイケアについて
- C01-9 「在宅」希望に寄り添う
- C01-10 あなたの想い「地域への復帰」を応援します ～新たなセラピストの使命を考える～
- C01-11 介護サービス事業所の役割 ～在宅生活を継続できる支援～

2. 訪問サービス&通所サービス

座長 岡崎 和佳子 有限会社 菜の花

池田 右文 株式会社池田介護研究所 代表取締役

- C02-1 訪問リハビリでの言語聴覚士の役割
- C02-2 「さくら通信」発行を通してのデイサービスの役割
- C02-3 高齢者腎不全患者様の訪問看護で感じたこと
- C02-4 サービスの「見える化」による相乗効果～動画で共感倍増！満足度向上を目指して～
- C02-5 「ゴミ屋敷からの脱出・・・お金は何処に？」～家族と一緒に暮らすことを支えるために～
- C02-6 デイケア天音の里における多職種連携による外出支援の実践
～生きがいのある在宅生活を支えるために～
- C02-7 『言語機能面の向上により、就労に結びついた事例』
- C02-8 軽度利用者に対する取り組みからその奥に見えたもの～後悔からの新たな気づきと課題～
- C02-9 デイサービスにおけるヨーガ、笑いヨーガの効果について
- C02-10 通所リハビリテーションにおける腹式呼吸併用レッドコード・エクササイズの効果について
- C02-11 当事業所における現状と課題 ～地域包括ケアシステムに根差した訪リハへ～
- C02-12 高齢者をトラブルから守れ！ヘルパーの気づきと防止策
- C02-13 通所リハの有効性 ～筋肉量と歩行能力の変化から～
- C02-14 社会的役割の再構築

3. 緩和ケアと看取り

座長 中嶋 啓子 医療法人啓友会

山名 保則 医療法人仁泉会 八戸在宅クリニック院長

- C03-1 当地域における強化型在宅支援診療所の現状と悪性腫瘍患者の看取り
- C03-2 地域密着型施設での看取りについて
- C03-3 在宅緩和ケア終末期においてモルヒネの投与経路に工夫を要した 1 例
- C03-4 続 入居者と家族をつなぐ支援
- C03-5 在宅ホスピスケアにおいて重要な視点
～「大切なひと、大切なことと、大切なときを生ききる」スピリチュアルケア～
- C03-6 多職種連携によるスピリチュアルケアへの取り組み
- C03-7 不安を克服し、自宅看取りができた一症例 ～妻の心境が変化した要因と訪問看護の関わり～

「第23回 全国の集い in はちのへ 2017」

4. 人材育成・教育

座長 長縄 伸幸 医療法人フェニックス
 沢田 章 社会福祉法人同伸会



- C04-1 チームの成長が人材育成に繋がる ～研修の学びを実践してみよう～
- C04-2 退院後フォローアップシステム構築に向けた取り組み
～退院前訪問指導の妥当性の検証をもとにして～
- C04-3 住民の主体的地域づくりを支援する
～地域共生社会実現へ向けた新潟市山潟圏域（中学校区）での看護小規模多機能の新たな取り組み～
- C04-4 大学生ボランティアによる地域での健康教育について
～独居高齢者の閉じこもり予防・ヘルスリテラシー向上をめざして～
- C04-5 「SWOT 分析を使い訪問看護ステーションの目標を明確にしよう」

5. 地域で支える認知症ケア

座長 村山 善紀 村山内科
 石戸 育子 公益社団法人 認知症の人と家族の会 青森県支部 代表

- C05-1 多職種との連携、地域住民との協働
- C05-2 1日100回のコール!! どんな支援があったの?
- C05-3 若年性認知症の人とその家族が生活を維持するために必要な支援
- C05-4 ゴミ屋敷問題の解決に向けた取り組み
～セルフ・ネグレクト事例を通じた傾向と課題の 考察～
- C05-5 認知症を発症した利用者の思いを傾聴する試みからの気づき
- C05-6 短時間ハンドマッサージの生理的・心理的効果
～重度認知症患者デイ・ケアにおける個別プログラムの検討～
- C05-7 私の話し聞いてえな! ふみふみカルタ～引き出せたみんなの笑顔
- C05-8 自立支援介護に基づく認知症改善への取り組み ～認知症あんしん生活実践記録～
- C05-9 あおもり認知症看護の会について
- C05-10 青森県の認知症施策について ～市町村支援をとおして～
- C05-11 認知症にやさしい町づくり ～まごころでつながる地域のネットワーク～
- C05-12 この町に根付く ～地域の一員として私たちができることは何か～

6. 口腔ケアと栄養管理

座長 中嶋 啓子 医療法人啓友会
 山名 保則 医療法人仁泉会 八戸在宅クリニック院長

- C06-1 介護職による安全でおいしい介護食作り
- C06-2 特養ユニットでの調理 ～今、私たちができること～
- C06-3 経管栄養の患者に「口から食べるバランスチャート」を活用して見えたもの
- C06-4 在宅復帰に向けたリハ栄養の取り組み! ～疾患に合わせた栄養ケア・運動療法による効果～
- C06-5 歯科から「口のサポーター」を目指して
- C06-6 多職種の協力と連携により3食口から食べることができるようになった症例

7. これからの地域包括ケア

座長 長 純一 石巻市立病院仮診療所
 原 徹 八戸医療生活協同組合 八戸生協診療所 所長

- C07-1 地域ボランティアが地域の担い手になるための新しい形。民間企業の取り組み方
- C07-2 「行政との共働で地域を共創する」 ～法人内ケア会議から地域ケア会議への発信～
- C07-3 地域連携で本人が満足できる地域包括ケアのあり方について
～帰郷を希望しているケースを通して～
- C07-4 市町村で取り組むグループ診療モデルの構築について
- C07-5 新しい拠点型サ高住のあり方 ～地域の健康・交流を支える～

「第 23 回 全国の集い in はちのへ 2017」

8. 新しい試み

座長 吉永 隆行 (株)キャナル・コンピューター・プリント
下沢 貴之 高齢者のトータルサポートかっこうの森 代表

- C08-1 スカラシップを利用し受け入れから3年目を迎えて
～フィリピンからの留学生の受け入れ後の振り返りと今後について～
- C08-2 在宅患者に対する高齢者総合機能評価 (CGA) と予後との関連の検討
- C08-3 二日町診療所の風景
- C08-4 特養併設の外来専用診療所の開設
- C08-5 グループホーム業務運営見直しへの取り組み
- C08-6 「個の生活の質」を視点にした知的リハビリを目指す
～多職種による総合評価と治療を背に～
- C08-7 夜勤の見直しで看護師の負担軽減につながったか？
- C08-8 実践！医療・介護提供事業所の5S
- C08-9 居宅介護支援課におけるリスクマネジメントへの取り組み (SHELL分析手法を用いて)
コアフォーマットを通じて 病院の退院日は在宅の入院日
- C08-10 ～次世代アロマセラピー～キッチン蒸留で作る「香る水」の可能性
- C08-11 認知面、ADL向上により笑顔、意欲に変化がみられた事例
～コミュニケーションロボット「パルロ」の導入効果～
- C08-12 明日のケアを変える 介護記録のアイデア
- C08-13 身体合併症を有する認知症患者への ICT を活用しての多職種の関わり
- C08-14 外来患者に対する地域包括的支援のあり方
- C08-15 ～生活習慣病自己管理センター (看護外来) のその後の取り組みを通して～
- C08-16 数字で読み解く connect8 ICT 活用状況

9. 薬と生活

座長 金井 秀樹 やまと調剤薬局
飯田 正彦 一般社団法人 八戸薬剤師会 副会長

- C09-1 当薬局における在宅患者の残薬削減への取り組み
- C09-2 2ICT ツール導入後の当薬局の在宅対応の変化
- C09-3 インスリン注射の過量投与を防ぐ支援ツール
当社製「インスリンオーバードーズ防止用単位ストッパー」をお使いいただいて
- C09-4 無菌調剤室 無菌製剤監査時の ICT 活用と効率化

10. 障がい者・障がい児ケアについて

座長 畑 恒土 医療法人あいち診療会
深澤 隆 医療法人財団青仁会 青南病院 病院長

- C10-1 すべての人がサポーターになる日まで
- C10-2 心に花咲く笑顔のAちゃん
- C10-3 障害者の在宅における歯牙脱臼の治療経験
- C10-4 地域移行支援に取り組んで
- C10-5 脳死状態にある重症障がい児への訪問看護
～家族の思いに寄りそう～
- C10-6 あおぞらクリニック通院患者の QOL 及び受診満足度調査



第3回

私の
こだわり『普段どおり、
いつもどおり』

医療法人社団佐倉の風
さくら風の村訪問診療所 院長
三嶋 泰之



独居高齢者宅で一緒に夕食

みなさん初めまして。この度、会報「風の萌—私のこだわり」への寄稿依頼がありましたので、いざ原稿を書き始めようとしたところ「こだわりがない」ということに気付き、はたと手が止まってしまいました。

仕方ないので、自己紹介をしつつ自らを振り返り私の診療に対する思いなどを述べていこうと思います。

2000年に順天堂大学医学部を卒業、医療法人社団佐倉の風 さくら風の村訪問診療所を2007年5月に社会福祉法人生活クラブ風の村のいち組織として千葉県佐倉市で開業し、その後独立、法人化を経て今日に至っております。ようやく11年目に入っただけです。開業前に、いらはら診療所やおおぞら診療所で研修をさせていただきお世話になりました。近くには日本医科大学千葉北総病院、東邦大学医療センター佐倉病院や成田赤十字病院など大規模な医療機関が複数あり恵まれた環境です。職員は看護師2名、事務員2名、医師1名の小さな診療所です。通常の外来診療はなく、訪問診療が主体の診療所です。近隣で開業している神経内科専門医に1ヵ月に2回ほど手伝ってもらっていますが、普段は基本的に5名で頑張っております。実患者数は80～90人/月で、年間看取り数はおおよそ40人ほどです。社会福祉法人生活クラブの組織である「風の村訪問看護ステーションさくら」や「風の村ケアプランセンターさくら」などと同じ建物内に診療所がある関係で、非常に連携しやすい環境にあり、日々助けられております。



診療所遠景

産科および小児科領域以外の全ての患者を受け入れていますが、循環器内科出身の私としては10年経っても日々勉強不足を感じているところです。毎日の診療の中で思うのは「家っていいな、凄いな」ということです。何が、と具体的に挙げられるものではありませんが、単純にそう思います。

開業当初は訪問診療の依頼があつてすぐに患者を訪問し診療開始としていたのですが、そうしているとなぜか多くの患者が最終的に紹介元の病院へ戻ってしまうことになってしまいました。原因をいろいろ考えた結果、診療所あるいは私の考えがしっかり届いていないのではないかと思い、その後は訪問診療開始前に必ず家族との面談を実施することにしました。そうしたところ、最期まで自宅で過ごす患者が目に見えて増えてきました。それを目指している訳ではありません。患者あるいは家族に対しては「自宅だろうと病院だろうと、本人が過ごしたい場所が居心地のいい場所」と説明し、その考えが昨日と今日、今日と明日でころころ変わっても構わないと伝えているだけです。計算すればすぐ分かる在宅看取り率をあえて出していないのですが、こうしたことが理由です。自宅でもずっと安心して過ごせるということがきちんと伝われば大丈夫なのだと分かりました。その他、面談時に「死ぬために家に帰ってくるのではなく、普通に過ごすために帰ってくる」「病気を抱えて入院していれば病人だけど、病気を抱えていても家で過ごしていたら普通の人」ということも伝えています。在宅医療だ、と気合いを入れて臨んではきっとダメなのだと思います。病院は治療する場ですが、家は過ごす場ですから。

こだわりがないようで、こだわりがあることに気がきました。

普段どおり、いつもどおり。

プロフィール

氏 名 三嶋 泰之 (みしま やすゆき)

生年月日 昭和46年9月22日 (45歳)

現住所 千葉県習志野市奏の杜3-10-3

学歴 1990年3月 埼玉県立浦和高等学校卒業

1991年4月 順天堂大学医学部入学

2000年3月 順天堂大学医学部卒業

職歴 2001年5月 医師国家試験合格(医籍登録番号 第416145号)

2001年5月 同愛記念病院内科研修医(墨田区)

2003年5月 同愛記念病院循環器内科(墨田区)

2006年4月 順天堂大学医学部附属順天堂医院循環器内科(文京区)

2006年7月 吉祥寺南病院内科(東京都武蔵野市)

2007年4月 さくら風の村訪問診療所開設(千葉県佐倉市)

2012年10月 医療法人社団佐倉の風設立 現在に至る。

リレー寄稿

金田理事 プロフィール

鳥取県東伯郡琴浦町の森本外科・脳神経外科医院 副院長 看護部長・ケアマネジャーとして、高齢者ケア、とくに認知症ケアの講演活動や指導を積極的に行っています。当病院は30年以上前から在宅医療に取り組み、リハビリテーションでも効果をあげています。デイケアセンターやグループホームなども併設し、地域で暮らす高齢者にとって頼りになる病院です。



人材育成と地域づくり —鳥取県東伯郡琴浦町—

在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

理事 金田 弘子

自立生活も認知症改善も
運動機能の回復から

私は、認知症のケアマネジメント研修をとおした新しい人材育成に関わっています。

この研修では、認知症の方をお持ちのご家族、サービス提供事業者の職員、地域包括支援センターの職員がメンバーとなって、約30人の参加者が一緒に学びます。

1回の研修は5時間、年4～6回開催となっていて、毎回、参加者が提出する宿題をチェックし、コメントをつけることは、私にとっても事務局にとっても大変な作業ですが、参加者のみなさんが、徐々に「認知症は予防できる!改善できる!」という意識に変わっていくことがわかるため、実は楽しいものになっています。

認知症の基礎理論を講義・演習で学び、実際に関わっている介護の事例の実践を組み合わせ、認知症ケアに必要な知識・技術を身につける研修であります。

研修先は岡山県美作県民局・高知市・四万十市・土佐市・鳥取県・日本認知症グループホーム協会鳥取県支部・浜田市・飯南町・大田市・陸前高田市・浅口市の各地で「認知症の重度化予防実践塾(以下 実践塾)」の講師を務めています。

必要な知識として『身体機能の低下と認知症が密接に関連している』ということを理解してもらい、そこで、①“**ふだんの体調(水分・栄養・排便・活動)**”に着目し具体的なテーマに取り組み認知力を高めること。②BPSDにも必ず行動の意味があるという観点から“**その人の生活歴を知りプライドを大切**”にし

ながら不安にさせない関わりをすることで平穏な心理状態を保てることを学んでもらう。塾生が宿題(ケア実践)を行う中で困った事や相談したいことなどがあれば、事務局がいつでも応じる体制も整え、塾生をフォロー出来る体制も整えています。

平成21年～26年塾生の参加数は388名(専門職324名・家族62名)内中断者18名あり総計の塾生は368名、認知症状数は974ありました。(※実践塾はH29年も継続中)

974症状の内訳は中核症状は28%、BPSDは72%で、改善は96%でした。

改善の決め手は「水分」でした。水分不足が改善したことで覚醒水準↑意識レベルの向上、身体活動性が上がり立つ・歩くことで起立大腸反射が働き便秘改善し結果食欲もでて元気を取り戻されます。

職員が知識に基づいた対応すると、利用者の体調が安定しそのことに気づいた職員から私たちにも教えてほしいと変化が起きチームケアができます。

事例と頻回に直接なかかわりを持つことができた家族は改善が見られました。

中断者・未改善から考えられることとして、「グループホーム・老健・特養」はチームケアの不徹底と基礎知識の不足、「デイサービス」はケアマネ・家族との連携不足が症状の改善に支障をきたし、「ケアマネジャー」はアセスメント不足でした。

「地域包括の職員」からは、自分たちは今まで地域会議を実施している中で支援方針が“専門医受診”や“各種教室参加”など決まった資源しか紹介出来ず、

「第23回 全国の集いinはちのへ 2017」大阪プレ大会報告 「だれもが住みやすい地域社会をめざして」

平成29年8月20日10時～12時30分
場 所:大阪市東成区民センター 小ホール
参加者数:128名

主催:医療・介護・保健従事者が元気になる会
共催:大阪地域医療ケア研究会、地域共生ケア生野推進委員会
NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

大会は2部構成とし、第1部は来年度全国大会長の小倉和也先生に「基調講演」をお願いし第2部はシンポジウム、地域共生ケアに関わる現場に関わる方をパネラーとして登壇いただいた。



速報!!

「地域医療研究会全国大会 2017 in 魚沼」

9月16日～18日の3日間にわたり開催されました。当会の黒岩前会長が大会長をされ延べ1000名が参加されました。

詳細は次号以降にさせていただきますが、当会の理事も何人か参加され、現地のスタッフの方々とは4年前の新潟大会以来の再開の場となりました。



活動予定

第23回全国の集いinはちのへ	2017
第23回全国大会	平成29年10月8日～9日
第23回全国大会	場所:八戸市公会堂ほか
第23回全国大会	平成29年10月9日
第23回全国大会	場所:青森
第23回全国大会	平成29年12月10日
第23回全国大会	場所:東京
第23回全国大会	平成30年3月4日
第23回全国大会	場所:東京
第23回全国大会	平成30年5月20日
第23回全国大会	場所:東京
第23回全国大会	平成30年8月26日
第23回全国大会	場所:東京

風の萌

2017年9月30日発行(第039号)

頒 価: 1部50円 会員は無料

◆ 発行 特定非営利活動法人(NPO)
在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

TEL:052-848-8800 FAX:052-895-1200

<http://www.home-care.ne.jp/net/> E-mail:zenkokunet@home-care.ne.jp

〒458-0007 愛知県名古屋市緑区簗山3-119 カーサフクシマC-32号

◆ 編集「風の萌」編集委員

編集後記

全国大会の季節がやってきました。

八戸・東京ともに事務局は、参加された方々にとり、有意義な大会となることを切に祈り、追いつめを掛けております。

(東京事務局/犬童)